



ベストピアは
小原靖夫の
個人誌です
2013年9月号
第319号

憲法第九条は何故、 どのように制定されたのか？

(1)はじめに 映画「終戦のエンペラー」を観る

憲法改正に向けた積極的な動きが始まっている中、国民の多くが憲法を考える時が来っていますが、第9条がどのような経緯で出来たかを知ることは改憲派の人、反対派の人双方にとって必要な知識です。日本人の常識とすべきことは次の点にあると本を読み映画、古いDVDも観て以下のことを考えました。

- ①日本政府が連合国に求めた唯一の条件は天皇の地位を守ること（国体護持）
何故、マッカーサーはあれ程までに天皇制維持にこだわったのか？
- ②東京裁判の被告人選定の段階で、戦争放棄条項は天皇を戦犯から除外するための戦略として憲法に織り込まれたこと（憲法9条はなぜ制定されたか 古関彰一著p26）
- ③たった一人の個人の考えが国境をこえて組織の決定に影響を与えることがある。
映画を観る限りでは「乙女への恋心、世界を動かす」の感が私にはあります。
- ④天皇に対する日本人の感覚は祖先崇拜と結びついて変化することのない原意識である。

そのような問いを持って、8月22日涼しい我が家にも猛暑が来襲しましたので、蒸暑い午後、妻と映画館に避暑にいきました。

観た映画は日米合作で有名な「終戦のエンペラー」です。

感動しましたがノンフィクションですから脚色があります。史実確認がしたく種本を探し読み更に感動しました。紹介します。

書名 「終戦のエンペラー」（陛下をお救いなさいまし）

原著は2002.05にホーム社より発刊されていたものを集英社が文庫本にしたのが
2013.5.13刊行

作者 岡本嗣郎 元毎日新聞記者 2013年8月6日逝去 57歳

私は作者にお会いしたくて随分調べましたがネット上で分かったことは上記のみです。

映画が日本で一般公開されたのが7月ですから、その翌月早くになくなられ、私が観た時は既に召天されていました。私の興味が増し加わり後日（9月2日）NHKスペシャルと

「昭和天皇二つの独白録」（1998,7,25刊）を読み引用史料が同じであることが判りました。尚、岡本嗣郎氏について感謝と追悼の言葉を述べさせていただきます。

「本著、終戦のエンペラーの記述は多くの参考文献をあたられ慎重に適切に引用されており私の理解を大いに助けてくれました。左右に偏ることなく常にご自分のお考えを明確に述べられており、特に最終では武田清子の「日本人の相克」の手法を用いて、天皇への忠誠は祖先崇拜の観念と結合した根深いもので、新渡戸稲造、河井道等のキリスト者をもってしてもその原意識は払えないと伺われる指摘は私の1963-4年の卒論主張を証明してくださったようで嬉しいかぎりです。然し現実には、罪の意識が希薄であるため、内外（韓国、中国他東南アジア、国内では沖縄、福島原発をめぐる）前進しておりません。おそらくそのような現状を意識のレベルから変革しなければならないと思われ、書かれ又映画化に同意されたことと推察します。英断に敬意を評し、若すぎる召天を惜しみます。

2013年9月11日

小原靖夫

(2)人物年表を作る。年表右に物語の概要を掲載

前掲の二冊の本を年代順にして、引用と解説を加えていきますが、以下6人について出会い、関係影響を分かりやすくする為に、1943年迄の年表を作りました

そして、登場人物を紹介します。

主人公 アメリカ側、ボナ・フェラーズ陸軍准将、

ラフカディオ・ハーンに惹かれた日本研究家、マッカーサーの腹心、
対日心理作戦策定、1971年2月日本政府から勲二等瑞宝章を受ける

日本側、河井道 恵泉女学校創立者、日本TWCA創立に貢献世界を歩く

恩師は新渡戸稲造、親友に渡辺（一色）ゆり、女学校創立の先輩に
津田梅子（津田塾大学前身、女子英学塾創設者）

別表第一面に物語の概要を簡単に記します。原作は感動します。乞う拝読

年表は1943年で終わっています。それ以後フェラーズ、河井道は共同して目的に向かいますので一つに纏めて記していきます。

(3)日本敗戦直前のフェラーズの考えと国際世論

1943年 「日本への回答」

日本の軍隊教育は「生きて虜囚の辱めを受けず、死して罪禍の汚名を残す事勿れ」（この言葉は1941年、東条英機が軍人の心構えとして示したもの）にあるように全滅するまで戦い抜く玉碎戦術であるから、物量で勝るアメリカ軍も苦戦を強いられ、戦闘は長引き、無用の犠牲が両国にでるであろうと予測して、何よりも日本兵の士気を弱め、組織的抵抗を断つためには、心理作戦が必要であると考えていた。このことを開戦前の1943年に論文をマッカーサーに提出しています。(Answer to Japan)

心理作戦の中で天皇をどう位置づけるか？

彼の考えを単純化を恐れず書くと「天皇は戦争責任者である軍部首脳にだまされている」

「天皇に対する日本人の忠誠心を低下させる方法はない。いつの時代においても天皇は神聖なもので、それを批判すると日本人を激怒させる」「天皇を戦争犯罪人として裁いたり、天皇制を廃止することが連合国の意図ならば、日本人は徹底抗戦をする」

よって、戦争責任にたいして「天皇免責論」「天皇不訴追」が基底となっています。

ワシントンや国際世論とは正反対の考えです。

1944年 「日本兵の心理」出版

フェラーズが1935年に書いた「日本兵の心理」が軍の内部で出版される。

これは、戦況が不利になっても状況を日本兵は知らされていない、彼らは死ぬまで天皇のために戦うだろうと考え、心理作戦の必要性が益々強くなってきたための対策でした。

1945年 アメリカの世論動向

6月アメリカのギャラップ調査（民間機関）戦後処理の中での天皇の処遇についての世論調査を行った結果、最も多かったのは「死刑にする」が33%、「終身刑」11%、「追放」9%「裁判で決定」17%でした。

更に8月全国世論調査センター（NORC）の調査結果は「天皇制を廃止させる」が66%で、「日本人の意思に任せる」は26%でした。

戦後の1945年9月18日 米国上議員本会議は「日本天皇ヒロヒトを戦犯として裁判にかけるとは、合衆国の政策である」との宣言を満場一致で可決します。

国際世論はどうであったか、少し後の戦後になりますが、1946年1月オーストラリアがロンドンの連合国戦争犯罪委員会に天皇を含む62名の戦犯リストをあげます。ソ連は1946年4月17日までは天皇制を廃して人民共和制を機関誌プラウダを通して主張していました。

(4)終戦間際の日本

終戦間際をおさらいしておきます。1945年6月22日御前会議でソ連に和平斡旋を依頼

（ソ連は2月のヤルタ会談でドイツが降伏したら3ヶ月以内に対日宣戦をすることの承認を取っていた）日本の政府、軍部のコミュニケーションはどうなっていたのでしょうか？

1945年7月26日ポツダム宣言が発せられるが、ソ連の回答を期待して日本は黙殺したので、8月6日の広島原爆、9日の長崎原爆とソ連の参戦宣告、ついに諦め御前会議、意見は二つの分にかれます。

①国体護持だけを条件として受諾（首相鈴木貫太郎、外務大臣東郷茂徳、海軍大臣米内光政）

②国体護持に加えて武装解除の方法、戦争犯罪人の処罰、占領の範囲についても条件をつけ、聞き入れなければ本土決戦も辞さない（陸軍大臣阿南惟幾、参謀総長梅津らほか1名）

ここで天皇の聖断になるわけですが、その意思是「外務大臣の意見に賛成である」との言葉で決まり、陸軍大臣の強行意見は退けられ、受諾内容が連合国に伝えられました。これに対しアメリカ政府の回答は以下の通り。

「降伏の時より天皇及び日本政府の国家統治の権限は連合国最高司令官に従属する」が「日本の最終的な政治形態はポツダム宣言に従い、日本国民の自由に表明する意思により決定さるべきである」この回答はその後の交渉で日米の極端な行動を制限する民主的なものですが、当時はこれをめぐって再び陸軍の強硬派と外務省が対立。これに怒りを発したのか天皇が初めて御前会議を招集（8月14日午前）天皇は自ら招集した御前会議の席で再び聖断をされたわけです。午後からは「玉音放送」の録音準備に入りますが出来上がったのは深夜の0時近くの様です。0時過ぎ、玉音放送の録音放送を終了して宮城を出ようとした情報局総裁らが坂下門付近で陸軍強硬派に襲われクーデターが起こりかけました。

感想 映画はこの辺りもよく描かれています。木戸内大臣は金庫に隠れて無事、録音版も無事でした。宮城を襲うことも天皇のためと最後まで戦うこの姿勢は諸外国に未だに日本を恐れる一つの要因になっていると私は考えています。クーデターは鎮圧され予定通り8月15日玉音放送がなされました。こうした忠誠心を逆手にとって戦後処理をスムーズにした占領政策に影響を与えたのがボナ・フェラーズでした。

ボナ・フェラーズはラフカディオ・ハーンの著書を200冊読んで日本を研究した知日家で日本国民の天皇に対する原感情をそれとなく感じ取っていたようです。

1938年6月、5度目の来日の折に「中国出征兵士の見送り風景を見に東京駅へ何度かかけた。兵士たちが何を思っているのか西洋人の私には判断できかねた。ただ直観でいうなら、兵士たちはすでに天皇のために死ぬ覚悟を完璧に固めていると思えた」「日本人の忠誠心や恐るべし。死こそ栄光なのだ」彼がハーンから学んだことでしょう。

(5)映画の始まり・フェラーズ、河井に再会

1945年8月30日

マッカーサーの厚木飛行場到着寸前の飛行機内からはじまります。丸腰で降りることを全員に伝え武器の装着を禁じます。フェラーズの登場です。

8月30日、フェラーズは日本に到着し、横浜ニューグランドホテルにつき、マネジャーに「渡辺道、一色夫妻の消息を知りたいので調べて欲しい」との願いに、マネジャーとして初出勤をした中山武夫が即答します。フェラーズは驚きました。

中山武夫の妻、五都は1934年アメリカに住んでおり、米国キリスト教連合婦人会に属し、河井道をアメリカに招き日米開戦阻止のための講演を依頼、河井は60都市で約200回の講演をしています。この時以来の親交が続いていたのです。

(57歳の河井がこれを引き受けたのは、1933年10月恩師新渡戸稲造が第5回太平洋会議に出席したが10月15日ビクトリアで客死していた。平和実現の遺志を継いで渡米しています)

9月2日、日本の政府全権が横浜港のアメリカ艦船ミズーリ号上で、降伏文書に署名

9月3日、中山武夫の娘、三都がフェラーズの手紙を河井にとどけます。三都も横浜ニューグランドで通訳の仕事についていました。

それを読んだ河井は「私の胸はいいようなない感激で高鳴っています。――あなたにお目にかかりたいのはやまやまですが、お願いですから、いましばらく私たちに会いにこないでください。私たちはいま、ただただ疲れきって、たとえお目にかかっても、あなたを喜ばせるような姿をお見せできません」と断っていますが、フェラーズには彼女に会う必要があり、9月4日フェラーズは即座にペンをとり「あなたには近い将来日本に自由な政治制度を築く上で貴重な助言者になってもらわなければなりません。出来るだけ速くあなたにお会いしたい。会っていただけるように切にお願いします」

9月23日 アメリカ大使館の敷地内にあったフェラーズの自宅に、河井と一色ゆりは招かれます。夕食後、フェラーズは二人に尋ねます。「天皇が戦犯となることについてどう思うか？」ゆりは、とっさに「陛下にもしものことがあれば、自分はいきていない」と答え、河井も「日本にとって大変なことである」と答える。この場面を岡本嗣郎氏は次のように再現されている。

「日本人はそのような事態を決して受け入れないでしょう。もし陛下の身にそういうことが起これば、私がいちの一番に死にます」「陛下が殺されるようなことがあったら、血なまぐさい反乱が起きるに違いありません」現在の天皇は「とっても国民から親しまれていらっしゃると思います。ここ何代かの天皇の中で、いまの陛下は最も国民に親しまれていると思います」フェラーズはこんな質問もしています。「日本兵が中国やフィリピンで行った残虐行為のことをご存知ですか？」河井の答えは「いいえ、よく存じません。私たち日本人は神を持っていない、ということをご忘れにならないでください」(p241から要約)

河井もゆりもクリスチャンで天皇崇拝者ではない、しかし、天皇や皇族に対しては、個人的な敬意と親近感を持っていたのです。

河井の父は伊勢神宮の神官であった。明治政府の財政緊縮によって解任された後も神事を行っていたが、事業にも失敗して、明治20年、道が10歳のときに函館に移住して、道はサラ・スミスが札幌に開講したばかりのスミス塾(二年後にスミス女学校となる)に一期生として入塾、スミス女史の優れた教育で、暗い寂しがりやの性格が活発でユーモアのある人格に生まれ変わる。人生最初の転機、受洗の年月日は調査中です。

(6)フェラーズの決意と河井の支援

フェラーズは、信頼していた二人のクリスチャンの友人の反応を重く受け止めます。「そのことは、天皇の免責というフェラーズの決意を更に固めさせることになった」

「天皇を退位させたり、絞首刑にしたりすれば、すべての日本人の激しい暴力的反発を招くだろう。日本人にとって天皇が絞首刑にされることは、我々にとってキリストが十字架にかけられることと同じである」(フェラーズが1943年に書いた「日本への回答」論文)

フェラーズがマッカーサーと共に厚木飛行場に降りた8月30日の時点で、「日本には陸海軍合わせて6,983,000人の兵力が残存した。うち国内は2,576,000人で、関東地方だけで30万人を超えた。マッカーサーはその関東地方の中心であり、戦争中、海軍航空隊の飛行基地だった厚木飛行場へ丸腰で乗り込んだ。即時停戦の大命で日本兵の戦火はピタリとやんだ。西洋人には理解できない日本という不思議の国で、天皇だけがなしうる神業だった」(p245)

「平穏に進む占領統治を日本兵の整然たる武装解除、動員解除を見て、天皇の処遇に関する腹を決めた。天皇を罰することではなく、逆にその力を借りることである。天皇の力は何万、何十万のアメリカ軍の力に勝る。その威光を利用しない手はない」(p247)

彼は十日間で「最高司令官あて覚書き」を書き上げるのに河井の力を相当借りたようです。文章の添削、追加も任せたとしてフェラーズは「私はあの覚書の内容について自信が持てなかった。あれはミチ・カワイから授かったものだ。彼女は実に偉大な女性だった。彼女が私を助けてくれた。彼女は知らないだろうが、マッカーサーの天皇に対する態度に彼女は大きな影響を及ぼしたと思う」(これは死去する9ヵ月前のインタビューでの談話) この偉大な河井道の伝記が岡本嗣郎氏の著書「終戦のエンペラー」です。年表にも示しましたように、スミス女史、新渡戸稲造、津田梅子らの教えを受けています。

この覚書はマッカーサーの決断に大きな影響を与えています。翌年1946年1月25日本国に送った緊急打電、最終判断はこの覚書が基調になっているところからそれが分かります。

感想 河井道は天皇の運命と戦後日本の成り立ちに多大の関わりを持ち、個人の影響力についての一つの証をした人です。組織の中で個人の存在はあるのかないのか分からないようになっていますが、18歳のフェラーズがアールラム大学で渡辺ゆりに会って、恋心にたもものを感じ日本への関心をもったことも個人の心の動きが御心にかなえばどこかで大きく現れることの証として我々に勇気を与えてくれます。

(7)根気あるフェラーズの戦い

聡明で慎重なフェラーズはソ連の動きを察しています。対日戦では協力したようになっていますが戦争終結とともに、利害は対立、即ちソ連は天皇制を廃して人民共和制政府を樹立することを共産党機関紙「プラウダ」などのメディアを使って表明していました。

このような国際情勢をみて、アメリカ国内で天皇を裁こうとする危険性に対して「ソ連は日本に革命が起きることを望んでいる。我が国（アメリカ）の政策は、革命を期待しているかのようだ。革命には天皇の排除が最も有効なのである」等の内容の「第二の覚書」を書いて、反ソ、反共の態度を明確に表しています。アメリカ国務省での見解は天皇有罪の意見が強くアメリカ統合参謀本部は11月29日に、天皇免責の判断に必要な証拠の収集を命じています。天皇を戦犯から除外するとする決定は1946年4月3日の極東委員会の「極東における戦争犯罪人の逮捕、裁判および処罰に関する極東委員会政策決定」の採択、国際検察局での決定は4月17日、日本への伝達は4月23日となっています。東京裁判は1946年5月3日に始まります。ギリギリまでフェラーズの戦いが続きました。

天皇はこの時以後も証人喚問の可能性があり、証人喚問になれば天皇免責が覆されるかもしれないという恐れがキーナンを悩ました。このことは新憲法の改正とからめた交渉で注目すべきです。（次号に続きます）

(8)天皇の開戦責任

9月18日 東久邇宮首相は外国記者との会談で「天皇は真珠湾の奇襲に関して知らなかった。これは陸海軍の一部が極秘にして決行したものである。天皇陛下は責任者でないと確信する」と答え、更に、執拗に迫る外国記者の質問、「日本の制度として天皇陛下が知ることなくして戦争を始めることができるか？」に対して「いままでの制度では政府が全責任をもっている。政府で決定したことは天皇陛下が承認する」とかわしますが、外人記者はすかさず「天皇陛下はそれを否決することができるか」とつつこみます。首相は「いままでは、政府が決定したことを天皇陛下は否決されなかった」と答えています。

天皇の開戦責任が最後まで問題となっていきます。終戦は天皇の聖断によっていることは記録によって明らかになっていますから、外人記者らは終戦決断が出来る者が開戦責任を果たさないのは矛盾があると迫っているのです。この問題を解決するために歴史が動いていきます。

9月25日、ニューヨーク・タイムスの特派員クルックホーンは新聞記者として初めて天皇に謁見し、次のような趣旨の質問をします。「東条英機が宣戦布告前に真珠湾を奇襲攻撃するという国際法違反を犯したが、天皇はそれを事前に知った上で宣戦の詔書に同意したのかどうか」天皇の答えは「そうではない」という趣旨でした。

(9)天皇とマッカーサーの初会談、フェラーズの役割

9月27日天皇、マッカーサー最高司令本部長と初会談ー玄関で出迎え最初に天皇に言葉をかけたのはフェラーズでした。彼の先導で応接室の前に案内、そこでマッカーサーが出迎え天皇と握手をします。会談は37分内容は未だに発表されていません。会談後の二人のリラックスぶりが映画からよくわかりました。予定に反してマッカーサーは天皇を玄関まで送りにきています。天皇はこのときのフェラーズの持てなし行儀作法に感謝された後、次のような感謝の言葉を伝えています「あなたが暖かく迎えてくださったときから、私はマッカーサー元帥との関係がうまくいくだろうと思いました」「あなたの自然で礼儀正しい出迎えのお陰で、会見に臨むのに安心感が持てました」

先回りになりますがフェラーズは1971年2月勲二等瑞宝章が贈られることになります。次に記します覚書の進言が東京裁判に大きく影響したと高く評価されたと言います

(10) 「10月2日覚書」の証拠をもとめて奔走

河井道と会ってからわずか10日足らずで覚書を作成しますが、フェラーズは文章の添削、追加も河井に任せています。天皇の運命と戦後の日本の成り立ちに大きな影響を与えた10月2日書簡です。

「ポイントは次の5点に集約することができます。

- ①天皇は日本国民の象徴であり、国民の忠誠心は絶対的なものである。
- ②天皇には開戦責任があるといえるが、開戦が天皇の自発的意思でなかったことは証明できる
- ③終戦の際、アメリカは天皇の力を利用して被害を最小限に食い止めた
- ④天皇を裁判にかければ、全国的な反乱が起き、占領政策に致命的な打撃を与える
- ⑤天皇を裁判にかけることは、アメリカの長期的な国益に反する」

(「昭和天皇二つの独白録」東野 真著NHK出版p35)

只、この覚書は心情的で物的証拠資料に欠けていましたので、本国ではなかなか素直に受け入れられずフェラーズの苦労は続きます。

そこで、河井は関屋貞三郎は（元宮内次官・クリスチャン）を訪問、「天皇を戦争犯罪人にしないためには、覚書だけでは足りない。もっと積極的な無罪証明が必要だ。天皇が知らなかったというはっきりした証拠が欲しい。動かぬ証拠だ。今は天皇を救えるかどうかの瀬戸際で、現状では決して楽観をゆるさない」とのフェラーズの見解を伝え相談しています。河井は4日も訪問、

10月4日、マッカーサーは国務大臣近衛文麿に憲法改正を示唆。総司令部は治安維持法の廃止、政治犯の即時釈放、思想警察の全廃、天皇制批判の自由化などを政府に命じる。東久邇宮首相は実施できないと総辞職

10月9日東久邇宮内閣から幣原喜重郎内閣になる。

10月12日、関屋が河井を経堂の恵泉女学校に訪ね、「陛下が真珠湾の奇襲攻撃を事前にご承知あらせられなかったという証拠はいまのところないが、戦前戦中の陛下のお言葉と、陛下ご自身がおつくりになった歌の数々がある」

映画ではその歌の一つは明治天皇の作である「四方の海 みなはらからと思ふ世に など波風の たちさわぐらむ」を紹介しています。この歌は1941年9月5日の御前会議の顛末で参加者達の好戦態度と旨くいかない言い訳に立腹された天皇が「朕は常にこの御製を拝誦して、故大帝の平和愛好のご精神を紹述せんとつとめているものである」と言われたものです。

河井は早速にフェローズに届けるも「大変ご苦勞をかけています。あなたのご尽力には感謝します。ただこの言葉と歌だけでは天皇を救うには不足です。あくまで真珠湾攻撃について、事前に陛下がご存知なかったことを証明しなければなりません。それも非常に緊急を要する事態で、切迫した局面に直面しています」とさらなる協力を要請されています。

10月16日、河井と関屋がフェローズを訪問、2週間奔走したが天皇の無罪証明の証拠は集めることができなかったことを伝え、次のような提案をしました。「天皇の平素の考えや人柄を理解して判断してもらうしかない」フェローズはその答えを了承しました。もともと、物的証拠や状況証拠は存在しないことは分かっていたはずですが。フェローズは二人の尽力に対して、もうこの件については作業を終了してよいと答えたと推定されています。

フェローズから依頼された天皇救済工作にかかわる河井の役目は終わりました。

この段階ではフェローズの人脈も増え、無罪証明を求めて、政界と軍首脳等四方八方可能な限り調査の範囲を広げています。

(11) フェローズ休暇で一時帰国

11月5日、幣原内閣の政府統一見解が発表されています。内容は極めて曖昧に「かわりのないこと」を説明しています。

政治とはいつの時代も変わらず、難しい言葉で曖昧さの中に自らの主張を入れていく、それは将来の責任追及を逃れる常識のようだと私は感じます。

11月下旬から1946年1月19日までフェローズはアメリカに一時帰国、

12月2日 木戸幸一、近衛文麿ら皇族や側近の逮捕、

12月6日 極東軍事裁判に向けアメリカの検事団が連合国11カ国の先頭をきって来日、主席検事はジョセフ・キーナン

12月15日、国家神道が廃止。 コートニー・ホイットニーGHQ内の民政局（GS）局長に着任、憲法改正にむけて組織固めをする。フェローズと同様に准将の肩書き、マッカーサーの懐刀の一人

1946年1月1日、天皇の人間宣言

1月9日、オーストラリアがロンドンの連合国戦争犯罪委員会に天皇を含む62名の戦犯リストを提出、マッカーサーは驚く

(12) 1946年1月19日フェローズ日本に戻る。

1月20日フェローズ、吉田茂外務大臣と会食、二つのことを要求する

①宮中とマッカーサーの意思疎通が十分できる日本人の連絡係を任命すること。これは24日に吉田から寺崎に言い渡されたが正式任命は一ヶ月も後の2月20日だった。

②皇太子（当時１２歳）に西洋の哲学や習慣を学ばせるため円熟したアメリカ人女性を家庭教師につけること。

１月２１日 河井と共に一色とらじ（前年１０月脳卒中で倒れ静養中）を見舞う。５０日ぶりに再会した河井はフェラーズに二つの依頼をしています。①講演と②恵泉女子農芸専門学校の許可をとるための土地の取得、経営感覚を身につけた河井をみることが出来る興味ある話です。二つとも実現しています。

１月２５日 マッカーサーが本国政府に天皇不起訴の意向を緊急打電して、やっとフェラーズの思いが国際舞台に出ることになりました。内容は１０月２日覚書が基調となっています。極秘とされ日本側知る由もなしです。

２月１日、毎日新聞が憲法について「松本委員会案」をスクープ。ホイットニーは「極めて保守的性格のもの」と批判、当初、憲法改正については過度の干渉をしない方針であったが、総司令部はこのまま日本政府に任せておいては、極東委員会、国際世論から天皇制の廃止を要求されるおそれがあると判断し総司令部草案の作成を決意。

２月４日、マッカーサーの指示により憲法草案制定会議がGHQ内に設置、コートニー・ホイットニーが主宰とし極秘裏に起草作業がはじまります。前の日にマッカーサーは総司令部民政局に、新憲法にかかる三原則を示したノートを渡しています。その後は修正をされますが、新憲法の第１条と第９条を至上命題とするものです。

２月８日、日本政府は「憲法改正要綱」（松本試案）を提出。この試案は前年１０月から１５回の会合を開いて検討し、１２月８日衆議院予算委員会でも審議されていたもの。前年１０月４日マッカーサーから近衛文麿への示唆により、１１月２２日には近衛案、１１月２４日には佐々木案が上奏されている。１２月２６日は民間にある憲法研究会から「憲法草案要綱」が発表され、これにGHQは目をつけていました。

２月１３日、ホイットニーは、日本が提出してきた憲法改正要綱（松本甲案）は明治憲法を手直ししたにすぎず、自由と民主主義の文書としては受け取れないと批判される。そして、次のように強い言葉をつけて新憲法草案（マッカーサー草案）を外務大臣吉田茂と憲法担当国務大臣松本に手渡しています。

「最高司令官は天皇を戦犯として取り調べるべきだという他国からの強まりつつある圧力から、天皇を守ろうという決意を強くもっています。今後も力の及ぶ限りそうするでしょう。しかし、皆さん、最高司令官といえども、万能ではありません。この新しい憲法の諸規定が受け入れられるならば、実際問題として、天皇は安泰になると考えています。さらに最高司令官は、これを受け入れることによって、日本が連合国の管理から自由になる日がずっと早くなるだろうと考え、また日本国民のために連合国が要求している基本的自由が、日本国民に与えられることになると考えております」（「憲法九条はなぜ制定されたか」古関彰一著 岩波ブックレットNO674 p13）

２月１８日、日本政府は松本の「憲法改正案説明補充」を添えて再考を求めるも、一蹴され、４８時間以内にマッカーサー草案の受け入れを言い渡されます

２月１９日、閣議でマッカーサー草案に対する態度はきまらず（受け入れを渋る）

2月21日、幣原首相がマッカーサーと会見し真意を聞き受け入れ決断、そのマッカーサーの真意とは次のような内容です。

「我々のBasic formsは草案の（天皇の地位を定めた）第一条と（第九条の）戦争を抛棄するとの規定にある」「日本の為に国策遂行のためにする戦争を抛棄すると声明して日本がMoral Leadershipを握るべき、この際先ず諸外国のReactionに留意すべきであって、米国案を認容しなければ日本は絶好のチャンスを失うであろう。松本案は世界から疑いの目を持ってみられ、その悪影響は計り知れない」（前掲書p15-16を私流に言葉を簡易化してあります）要は、日本が戦争を抛棄して平和を求めるという道徳的リーダーシップを発揮すれば天皇の戦争責任は免れ天皇の地位が守られるということです。

この時期、マッカーサーは2月26日に決まった極東委員会の設置を気にかけてそれまでに自分にできることを最大限遂行しようと焦りもあったようです。

2月20日、寺崎英成は宮内省御用係に正式に任命され、フェラーズを訪問、以後二、三日に一度の割合で顔を合わす。

フェラーズの祖母ベッツィ・ハロルドが寺崎の妻グエンドレン・ハロルドの叔母にあたることが分かった（3月8日）

2月26日、極東委員会第一回会議を開催、

この日、日本政府はマッカーサー草案の受諾を正式発表

3月2日、極東国際軍事裁判の被告人選定作業が始まる。

マッカーサー草案に基づく日本案（3月2日案）を完成、3月4日提出

3月4日、ケーディス（民政局行政課長）は上記の相違点に気づき激怒、夕刻、英訳作業を終えて、午後8時半から日本側とともに、徹夜の逐条折衝が開始されます。その様子はNHKスペシャル「日本国憲法誕生」2007年11月22日が詳しく放映しています。両国による確定した「憲法改正草案要綱」が3月6日発表されました。（3月6日案）

この激しいやり取りの中で女性の地位向上を守ったのは通訳のベアテ女史です。ここで初めて男女平等が実現します。日本女性の大恩人です。詳細は次号に記します。

NHKスペシャル「日本国憲法誕生」2007年11月22日のDVDが詳しいです。

(13) 3月6日は重要な日となる

フェラーズは米内光政（終戦時の海軍大臣、元首相）を呼び、重大な発言をします。その要旨は次の通りです。連合国の中には天皇を戦犯として処罰すべきと強く主張する国があり、特にソ連は全世界の共産主義化を狙って、日本の天皇制とマッカーサーの存在を邪魔にしている。アメリカ国内でも上層部には天皇を戦犯として裁くべきだとの主張が相当強

くある。その対策としては、天皇が何らかに罪のないことを日本側が立証してくれることが最も好都合だ。そのためには近々開始される裁判が最善の機会だと思う。この裁判で東条に全責任を負わせるようにすることだ。そこで、東条に次のことを言わせてもらいたい。開戦前の御前会議において、たとえ陛下が対米戦争に反対されても、自分は強引に戦争までもっていく腹をすでに決めていたと」p314(高田万亀子「新出史料からみた昭和天皇独白録」)

これに対して米内は「全く同感である」と答えています。これに対する東条英機の答えは有名です。「そんなことは心配ないと、米内君にいつてくれ。おれが恥を忍んで生きているのも、この一点があればこそだ」

獄中にあっても天皇のために生きる、そして死ぬ覚悟がみられるのです。(原意識)

憲法改正草案要綱を発表、天皇憲法改正の勅語を発出

象徴天皇と戦争放棄を内容としています。(次回詳細を記します)

(14) 3月18日、「昭和天皇独白録」聞き取り始まる

1990年公開された「昭和天皇独白録」の聞き取り作業が開始、4月8日まで5回、8時間以上かけています。天皇は風邪をひかれていたが急を要するとのことで実施された。極秘の作業でした。フェラーズが天皇の免責工作として寺崎に指示したようです。1996年、要約の英語版がフェラーズのひとり娘ナンシーさんが保管していた遺品の中から発見されたのです。(ナンシーさんが5歳の時に河井道は会っていました)

側近の5人が天皇から直接、15年間の戦争に関わる話を聞き取って、書記の寺崎が書き留め、その一部を寺崎が英訳したもので、東京裁判で訴追を免れるための対策文書となったのです。「昭和天皇二つの独白録」(東野真著NHK出版)が参考になります。

英語版の発見によって独白録はアメリカ側の要請又は命令であったと解せられます。アメリカ側は以前から、天皇自らが無罪の証明をすべきであるという姿勢でした。

3月27日、天皇は米国教育使節団団長ジョージ・ストッダードと皇居で会談、突然に皇太子の家庭教師を依頼した。これは1月20日フェラーズが吉田茂に要請したことでした。家庭教師をバイニング夫人に選定したのもフェラーズでした。これは総司令部や国際世論を軟化させ、その心情をよくするための、深慮遠謀から出た策で、天皇の免責に必要にして有効なものになったようです。正式決定は8月初め、そしてバイニング夫人に秘書をつけることになり、松村たね子が決まるのですが、ここにも河井道が登場します。松村は恵泉女学園で英語の教師をしていました。そこへ、当時、学習院院長だった山梨勝之進が頼みに来るのです。河井は反対するも押し切られます。この光景も面白いです。p321

フェラーズもバイニング夫人も松村たね子もクエーカー教徒であった。

4月10日、衆議院議員総選挙

(15) フェラーズの仕事は終わった

4月17日、国際検察局が天皇不起訴を最終決定、

正式に条文化された憲法改正草案（全文）が公表される。

4月23日、ワシントンの極東委員会も天皇不起訴を決め、マッカーサーに伝える。

物的証拠が出たのではありません。かねてからの要求の通り天皇みずからに、開戦に「かかわっていない」ことを独白させ、再軍備が出来ないように憲法を作ることによって、国際世論を落ち着かせたようです。

「フェラーズの仕事は終わった。18歳のときアラム大学に進み、そこで渡辺ゆりに出会い日本に関心を持ち、32年も日本と関わり続けた。戦争で敗北へ追い込み、終戦処理で最大の問題にケリをつけた。50歳だった。かねての念願の陸軍をやめ、本国の妻子のもとへ帰るときが来た」（p324） 帰国に先立つ4月のある日小泉家を訪ねハーンの長男小泉一雄と孫の時に会っています。

4月29日、天皇誕生日。A級戦犯28名の被告人名簿を公表、天皇の名は無かった。

5月3日、東京裁判が始まる。

5月22日、幣原内閣総辞職、第一次吉田茂内閣が発足

6月8日、枢密院本会議で天皇臨席の下、憲法改正案は多数決で可決されました。この後衆議院で可決（8月24日）貴族院可決（10月6日）翌日衆議院にまわされ正式可決されました。

以下は次号とします。「憲法9条はなぜ制定されたか」その2

あとがき:

極めて常識的なことを長々と書きましたが、ベストピアの目的は、私の孫達へのメッセージです。私の知識もこの程度、大体、高校1年生レベルです。大学受験にはほど遠いです。

憲法問題と原発は「戦争と平和」の問題ですから、時代状況を書き留めたいと考えています。一般市民がその時代にどのように考えていたかは歴史を学ぶ上で重要なことです。

今回分かったことは憲法第1条と第9条とが天皇の戦争責任問題と深い関わりがあることが学者の間で論議されるようになったのは10年前位らしいということです。

次号では第9条の芦田修正、男女平等が成立する過程の論議（日本の民主主義はやはりアメリカから与えられたものである。日本側の憲法草案は最後まで封建的であった）生存権、義務教育の範囲を広げるのは森戸辰男の民間発想が追加されていることも興味深いです。彼はワイマール憲法を学んでいました。麻生副総理にも学んでもらいましょう

「終戦のエンペラー」 概要

年表は4ページありますが、ここから、特に登場人物の関係、影響を中心に概要を記します。

敗戦後の日本を占領統治した連合国最高司令官ダグラス・マッカーサー元帥が最も信頼した部下の一人、側近中の側近にボナ・フェラーズ陸軍准将は1896年イリノイ州の敬虔なクエーカー教徒の農家に生まれました。

クエーカーとはプロテスタントの一派でありフレンド派に属する。信仰は伝統的形式的な儀式を否定し、内面的、霊的な体験を重視する。いっさいの暴力や戦争を否定する平和主義な社会活動をする。

河井道は1877年生まれ、父は世襲で伊勢神宮の神官だった。明治政府の財政難で罷免され、事業にも失敗して道が10歳の1877年函館に移住。この年、道は宣教師サラ・クララ・スミスが私財を投じて開講したスミス女学校（札幌市、現、北星学園女子中学高等学校）に入学。第一期生生徒7名の全寮制、スミス女史の暖かい教えで暗い寂しがりやが明るい積極的なユーモアな性格に変身（受洗と推定）新渡戸稲造の教えも受ける。

新渡戸稲造は**1891**年アメリカ人メリ・エルキントンと結婚して日本に戻り札幌農学校とスミス女学校で教鞭をとっていた。渡米は**1844**年でクエーカー教徒ジョン・ホプキンス大学に留学しており新渡戸もクエーカーの会員であった

1897年新渡戸は教え子の道を東京に呼び寄せ、津田梅子に英才教育を依頼する。津田は6歳で岩倉使節団に随行渡米した才女でプリンマー大学に日本人女性を受け入れる基金を設立していた。

1900年河井はプリンマー大学に留学、帰国してTWCA創設に貢献、1909年再度渡米中アールラム大学を訪問、その校風に惚れ込む。津田の女子英学塾の8期生であった、渡辺ゆりは河井と津田の推薦でアールラム大学に留学（1911年）

1914年にフェラーズがアールラム大学に入学、渡辺とは2年間共に学ぶ。映画ではフェラーズが渡辺に恋心を抱くことになっています。フェラーズの日本人、日本国への関心がここで触発されます。1922年フェラーズが初めて来日し渡辺が河井を紹介します。渡辺は結婚して一色ゆり、夫のトラジも博学でフェラーズに武士道等日本の文化を教授

1929年世界恐慌の最中に河井は一色と協力して恵泉女学校を創立、ご真影を掲げず平和運動で活躍1934年米国キリスト教連合婦人会の招きで渡米、その時の招聘者の一人に中山武夫の妻、五都がいたのです。1945年8月30日フェラーズが横浜ニューグランドホテルで河井・一色の消息を尋ねたのが中山武夫でした。中山はその日が初出勤でした。

9月23日河井と一色ゆりはフェラーズの招待に応え再会をします。フェラーズは天皇免責を判断する覚書を10月2日にマッカーサーに提出すべく河井の援助を求めます。27日は天皇とマッカーサーの初会談、その準備も彼の仕事です。後日天皇に褒められる持てなしをします。覚書だけでは不十分と言われ何かの証拠を求めて河井と一色が尋ねたのは関屋禎三郎であった。彼も無教会のクリスチャンであった。16日の三者会談で河井の依頼された天皇救済工作にかかる仕事は終わります。フェラーズは四方八方ありとあらゆる手段で関係者に会っていきます。

1946年1月20日外務大臣吉田茂に①宮中と意思疎通できる人を求めます。任命されたのは寺崎英成、彼の妻グエンドレン・ハロルドがフェラーズの祖母ベッツイ・ハロルドの叔母にあたることが判明します②皇太子の家庭教師を勧めます。決まったのがヴァイニング夫人彼女もクエーカーで皇室に聖書を教えた人として有名です。その秘書になったのは恵泉女学院で教鞭をとっていた松村たね子もクエーカー教徒でした。

フェラーズは1971年2月2日勲二等瑞宝章を贈られます。叙勲の理由は河井と合作した10月2日の覚書で天皇不訴追を進言したことといわれています。本文へ

小泉八雲フェローズ関連

1850 ラフカディオ・ハーン誕生

1884 ニューオリンズ万博で服部一三に会う

1890 4月、ハーン、横浜港に着く、
7月、服部一三の紹介で島根県の二つの
学校の英語教師となる

1891 小泉セツと結婚

1896 ハーン日本に帰化、東京帝国大学講師
この年に、ボナ・フェローズが生誕

新渡戸稲造、河井道関連

1862 新渡戸稲造誕生

1877 札幌農学校2期生として入学

この年に河井道が生誕(伊勢市)

1844 渡米してジャンズ・ホプキンス大学入学

1887 河井道、札幌のスミス女学院入学

1888 渡辺ゆり生誕

1891 新渡戸、米国人メリー・エルキントンと
結婚し、帰国、札幌農学校の教授となる。

スミス女学校でも教え、河井も教え子となる

1897 新渡戸は河井を東京に呼び津田梅子に英才
教育を託す

津田梅子関連

1864 津田梅子誕生

1871 岩倉使節団に随行、満6歳で留学

1873 フィラデルフィア独立教会で受洗

1882 大学を卒業、11月に帰国

1885 伊藤博文の推薦で華族女学校教師となる

1889 津田、二度目の留学 プリンマー女子大学
に日本女子留学生の為の奨学金基金を作る

1892 津田帰国、再び華族女学校に勤める

津田は河井を特訓し、留学を勧める

河井は後にプリンマー女子大学に留学

小泉八雲・フェローズ関係

- 1903 東京帝大退職、後任は夏目漱石
- 1904 早稲田大学講師 日露戦争
- 9月26日西大久保自宅で死去、54歳
- 1914 フェローズ、アーラム大学入学
- 渡辺ゆりと出会う。日本に関心を持つ
- 1916 フェローズ、ウエストポイント陸軍士官学校に進む
- 。
- 1922 フェローズ、初来日、一色ゆりから河井を紹介される。日本をよく知りたいなら
- ラフカディオハーンを学ぶように勧められる。
- 1924-29、母校で英文学を教える。

1898 新渡戸は河井を伴ってアメリカに静養に出かける。河井21歳

- 1899 「武士道」英文出版される
- 1900 河井、プリンマー女子大学に入学
- 1904 河井、プリンマー女子大学卒業、帰国
- 女子英学塾の教授となる
- 1905 河井、YWCA発足に貢献、活動開始
- 1909 河井、1年半米国、ヨーロッパ旅行
- 米国滞在中、アーラム大学を訪問、
- 日本の女子留学の道を開く
- 1918 河井、一色ゆり、森久保作蔵の西洋館を
- 間借りする。（恵泉設立の原点となる）
- 1920 新渡戸稲造、国際連盟事務次長となる。
- 1926 帰国間際に河井道がスイスを訪問。
- 河井は1925年YWCAを辞め、建学に目覚め
- 1926年園芸教育視察のため米英デンマーク
- ベルギーにでかけ、スイスに立ち寄り建学
- 相談に新渡戸に会いに行くも猛反対される

津田・渡辺関連

- 1900 津田梅子、女子英学塾を開校
- 1904 渡辺ゆり、女子英学塾入学（8期生）
- 7期生に森久保作蔵の娘、寿、がいる
- 渡辺と寿は親友となる
- 1911 渡辺ゆり、アーラム大学に留学
- 津田、河井二人の推薦を受ける才女
- 1914 渡辺ゆりアーラム大学でフェローズと会う
- 1916 渡辺ゆり、帰国
- 一色トラジと結婚する。
- 1919 津田梅子体調を崩し塾長を辞任する。
- 鎌倉の別荘で長期の闘病後1929年64歳で
- 召天。津田塾大学となるのは1948年

ボナ・フェラーズ関連

1929 世界恐慌始まる

1930 フェラーズ、ドロシー夫人を伴い
第2回目の来日

①小泉家を訪れる。セツ未亡人と会う

以後親交が深まる。

②一色トラジから、切腹、武士道、忠臣蔵等から大和魂を学ぶ

1933 新渡戸、カナダで客死

1934 フェラーズ夫妻、カンザス市に河井を訪問。フェラーズ日米開戦止むなしと直感する。

1935 陸軍指揮幕僚大学の卒論
「日本兵の心理」を書く
この論文はマッカーサーが読み
米陸軍内部で出版され、対日戦の
テキストとなる。

河井 道関連

1929 恵泉女学校を創立、河井が生涯一度、新渡戸の教えに背いた行為と述懐している。

ご真影を掲げず「真善美」の額を掲げ 土地建物は森久保作蔵から借りたもの

生徒9名、教師11名

1930 小田急線経堂駅近くに土地を購入
12月に移転

1931 満州事変、柳条湖事件

1932 新渡戸、中国大陸をめぐる日米関係の急速な悪化を憂慮、4月渡米
100回の講演

1933 新渡戸、昭和天皇の要請で宮中に赴き、報告、天皇の戦争回避の要請を受ける。

8月第5回太平洋会議、カナダのバンフに向かう。

10月6日ビクトリアで客死

1934 河井、米国キリスト教連合婦人会の招きで訪米、60都市で約200回講演

57歳の河井は新渡戸の遺志を継いだ。

(新渡戸、河井に共通する天皇観)
この時の招待側に中山武夫夫人五都がいた。

1936 再びフィリピン勤務、
マッカーサーの下でフィリピン独
立準備政府ケソン大統領との連絡
将校を勤める。

1937 3度目の来日、マッカーサーとケ
ソンと共に。2、26事件後の軍
部台頭、中日戦争に向かう日本を
体感

12月7日盧溝橋事件 4度目の来日
をしている。

1938 5度目の来日、2週間滞在中、
小泉一雄と会い最良の友となる
中国出征兵を見送る風景を何度も
東京駅に見学に行く。「日本人の
忠誠心、恐るべしや」ハーンの教
えを実感する

1939 在アフリカ英国軍軍事監視員

1940 エジプト米陸軍武官として従軍
戦地で日本との開戦を知る

1942 ワシントンで戦略情報局OSS
心理作戦の中枢となる。

1943 9月マッカーサー・I will return
ブリスベンに司令部を置き軍事
秘書としてフェラーズを指名
「私の目となり、耳となれ。
決して周囲に気づかれるな
報告書は書くな、口頭で伝えよ」
と命令

後の話になりますが、フェラーズが1945
年8月30日来日の初日に河井と一色を探
すように命じられたのが中山武夫です。

この後も奇跡的な人脈の織りなしが続
きます

1937 マッカーサー一行の歓迎レセプシ
ョンに 一色ゆり夫妻が出席して
いる。

1941 河井、3月日本キリスト教連名
平和使節団の一員となり7月まで
渡米、12月8日真珠湾奇襲攻撃

1942 3月マッカーサー一時退却
6月ミッドウェイ海戦
8月ガダルカナルで日本大敗
アメリカはマンハッタン計画開始

1943 河井、恵泉女子農芸専門学校の
設許可を申請、賀川豊彦の娘
千代子も加わる。
長島愛生園に恵泉寮一棟を寄贈